

# 厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業 (Japan Nosocomial Infections Surveillance: JANIS)

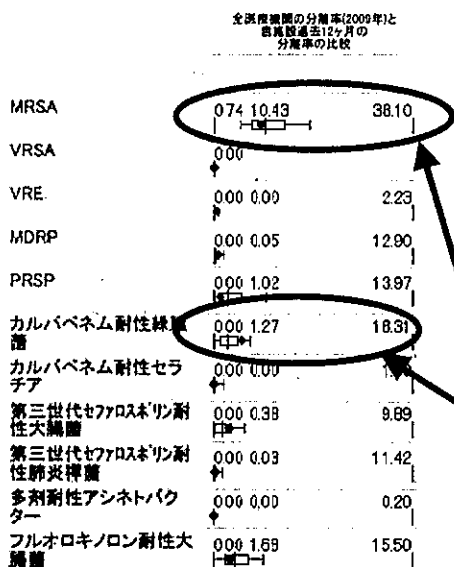
厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)は、医療機関ごとに「薬剤耐性菌の分離率」や「院内感染の発症率」に関するデータを収集することで、我が国の院内感染の概況を把握し、医療現場への院内感染対策に有用な情報の提供を行うことを目的としており、下記の 5 部門に分かれています。現在、病床数 200 床以上の一般病院の約 4 割が参加しております。

表 JANIS 各部門の参加医療機関数(2010年8月現在)

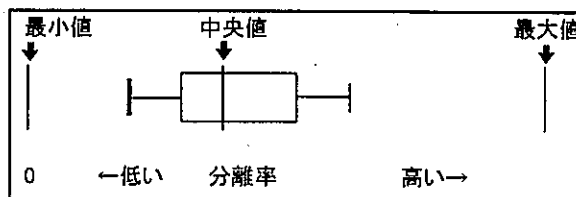
全国参加 医療機関	部門				
	検査	全入院 患者	手術部位 感染(SSI)	集中治療室 (ICU)	新生児集中 治療室(NICU)
847	601	438	323	136	89

参加医療機関はサーベイランスデータを提出すると、定期的に「還元情報」を受け取ります。この「還元情報」では、自施設の薬剤耐性菌分離率や感染症の発生率の経時的推移や全参加医療機関との比較を確認できます(図1、図2)。また全参加医療機関の薬剤耐性菌分離率などは、ホームページ上で一般にも公開されています(<http://www.nih-janis.jp/>)。

図1 検査部門還元情報：特定の耐性菌の分離率



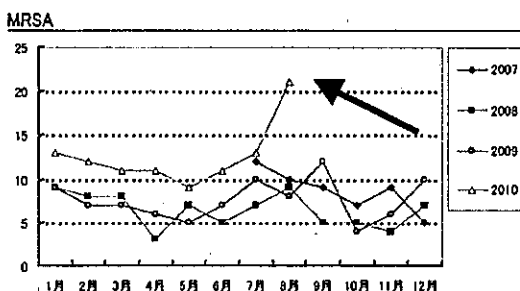
全参加医療機関における分離率や発症率の中央値や最大値、最小値などを「箱ひげ図」を用いて示しています。



自施設の分離率を「箱ひげ図」内に赤い点「●」で示すことにより、自施設が全参加医療機関の中でどのような位置にあるかが確認できます。

この医療機関は、MRSAでは赤い点が中央値より左にあるため、全参加医療機関の中で分離率は低いといえます。一方、カルバペネム耐性緑膿菌では赤い点が中央値より右にあるので、参加医療機関の中で分離率が高いといえます。

図2 検査部門還元情報：MRSA 分離患者数の経時的推移



自施設の経時的推移は、横軸を月、縦軸を分離患者数で示したグラフで確認できます。

2010年8月に急に分離患者数が増えているのが分かります。